

東北地方 3か月予報

(1月から3月までの天候見通し)

平成19年12月25日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
気温は、平年並または高い確率がともに40%です。東北日本海側の降雪量は、平年並または少ない確率がともに40%です。

1月 寒暖の変動が大きいでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。東北太平洋側は平年に比べて晴れの日が少ないでしょう。
気温は、平年並または高い確率がともに40%です。

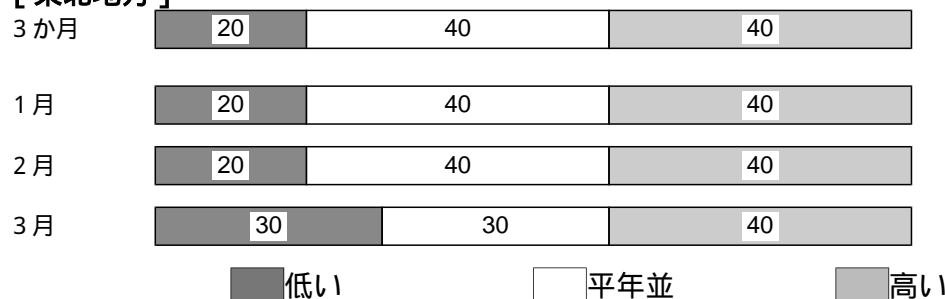
2月 東北日本海側は平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。東北太平洋側は平年に比べて晴れの日が少ないでしょう。
気温は、平年並または高い確率がともに40%です。

3月 天気は数日の周期で変わるでしょう。東北日本海側は平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。東北太平洋側は平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<向こう3か月の気温、降水量、降雪量の各階級の確率(%)>

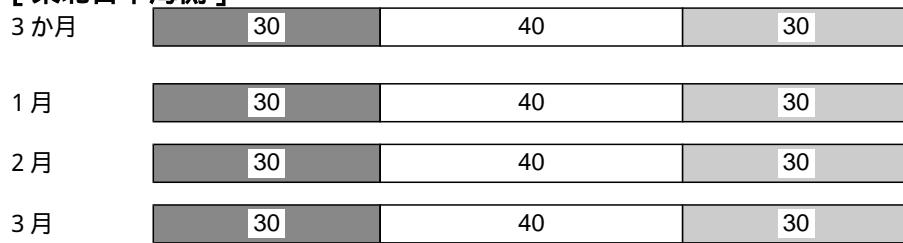
<<気温>>

[東北地方]

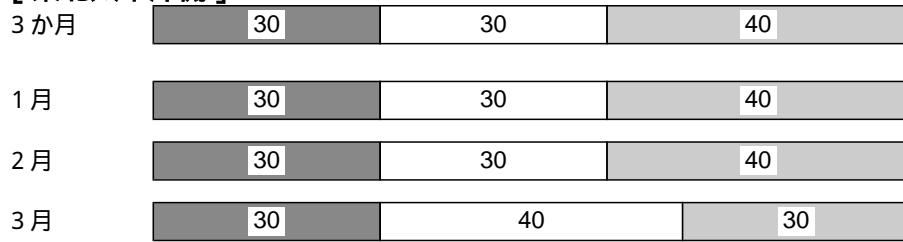


<<降水量>>

[東北日本海側]



[東北太平洋側]



■ 少ない

□ 平年並

■ 多い

<<降雪量>>

[東北日本海側]



<次回発表予定等>

1か月予報：毎週金曜日 14時30分 次回は12月28日

3か月予報：1月24日(木) 14時

1月の予報については、新しい資料による次回以降の1か月予報を適宜ご利用ください。

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 平年値(月・3か月平均気温、降水量、日照時間、降雪量)

	気温()				降水量(mm)				日照時間(時間)			
	1月	2月	3月	1月~3月	1月	2月	3月	1月~3月	1月	2月	3月	1月~3月
青森	-1.4	-1.1	2.0	-0.2	144.9	116.0	69.5	330.3	56.7	72.9	140.8	270.4
深浦	-0.4	-0.2	2.6	0.7	96.9	77.3	78.3	252.5	31.3	48.8	120.0	200.0
むつ	-1.6	-1.5	1.4	-0.6	96.0	84.9	77.3	258.1	77.0	91.8	154.3	323.0
八戸	-1.2	-0.9	2.3	0.1	48.2	52.7	51.6	152.4	134.5	131.8	173.8	440.0
秋田	-0.1	0.2	3.2	1.1	114.4	92.0	93.0	299.4	44.6	65.6	135.7	246.0
盛岡	-2.1	-1.6	1.8	-0.6	50.6	54.9	80.1	185.6	124.0	128.9	167.3	420.1
大船渡	0.7	0.9	3.5	1.7	43.5	58.2	91.8	193.5	148.6	141.9	168.7	459.1
宮古	0.2	0.3	3.0	1.2	52.6	79.6	85.9	218.2	163.6	151.2	182.9	497.7
仙台	1.5	1.7	4.5	2.6	33.1	48.4	73.0	154.0	151.3	151.9	182.3	485.5
石巻	0.5	0.9	3.7	1.7	33.1	44.3	70.3	147.7	167.6	162.6	189.7	519.9
山形	-0.5	-0.2	3.1	0.8	75.4	70.2	66.5	212.1	89.6	99.3	146.5	335.4
新庄	-1.3	-1.0	2.0	-0.1	181.4	145.3	112.1	438.8	43.1	56.3	117.2	216.5
酒田	1.5	1.4	4.2	2.4	152.6	115.3	103.5	371.4	39.9	60.0	126.1	226.0
福島	1.4	1.8	4.9	2.7	43.8	49.8	76.9	170.5	136.6	144.3	179.2	460.1
若松	-0.7	-0.4	3.0	0.6	80.9	70.2	63.9	215.0	80.9	97.3	140.1	318.3
白河	0.2	0.5	3.6	1.4	30.6	41.4	71.1	143.5	160.9	152.4	183.4	498.1
小名浜	3.6	3.7	6.2	4.5	46.2	61.9	106.1	214.1	189.6	175.0	187.8	552.4

	降雪量(cm)			
	1月	2月	3月	1月~3月
青森	250	205	97	553
深浦	123	114	53	290
むつ	175	160	95	430
八戸	95	103	56	253
秋田	142	120	51	312
盛岡	106	98	60	264
大船渡	23	27	13	63
宮古	43	72	47	162
仙台	29	31	15	75
石巻	13	24	11	48
山形	163	147	71	381
新庄	283	242	134	658
酒田	138	119	43	299
福島	86	73	34	194
若松	185	160	74	419
白河	58	51	32	141
小名浜	5	7	2	13

欠測により平年値を求めるための資料年数(観測値のある年数)が各月毎に異なることなどにより、3か月平年値等が各月の平年値から求めた値と一致しないことがあります。

(2) 1971~2000年のデータに基づいたこの予報期間の地域平均の気温、降水量、降雪量の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

要素	予報対象地域	1月	2月	3月	1月~3月
気温平年差()	東北地方	-0.3 ~ +0.8	-0.4 ~ +0.5	-0.4 ~ +0.4	-0.3 ~ +0.4
	東北日本海側	-0.3 ~ +0.7	-0.3 ~ +0.4	-0.4 ~ +0.4	-0.4 ~ +0.4
	東北太平洋側	-0.3 ~ +0.8	-0.4 ~ +0.6	-0.4 ~ +0.3	-0.3 ~ +0.5
降水量平年比(%)	東北地方	81 ~ 103	80 ~ 109	87 ~ 111	93 ~ 102
	東北日本海側	93 ~ 109	95 ~ 108	90 ~ 109	95 ~ 105
	東北太平洋側	62 ~ 104	69 ~ 117	78 ~ 120	89 ~ 104
降雪量平年比(%)	東北地方	85 ~ 106	78 ~ 118	78 ~ 117	83 ~ 114
	東北日本海側	96 ~ 110	87 ~ 115	79 ~ 118	93 ~ 109
	東北太平洋側	72 ~ 102	73 ~ 119	66 ~ 106	75 ~ 114

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間ににおける各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるように決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。

東北地方 3か月予報解説資料（1～3月）

平成19年12月25日 仙台管区気象台

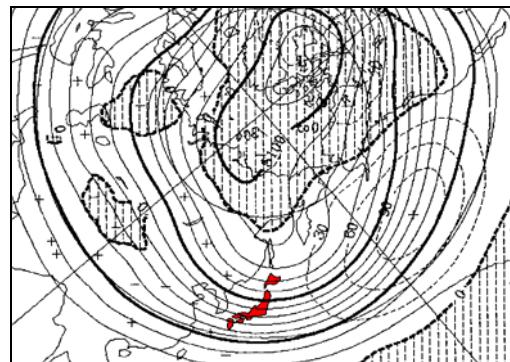
向こう3か月の確率予報の特徴

	気温	降水量
1～3月	平年並または高い確率がともに40%	各階級の確率の偏りは小さい
1月	平年並または高い確率がともに40%	各階級の確率の偏りは小さい
2月	平年並または高い確率がともに40%	各階級の確率の偏りは小さい
3月	各階級の確率の偏りは小さい	各階級の確率の偏りは小さい
1～3月の東北日本海側の降雪量は、平年並または少ない確率がともに40%		

2. 数値予報（アンサンブル予報）による大気の流れの予想

3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図（右図）：

予想図では、北極付近が負偏差、中緯度帯が広く正偏差。北極振動は、寒気蓄積パターン。日本付近へ持続的に強い寒気が南下する可能性は小さく、3か月平均気温は「平年並」または「高い」可能性が大きく（確率はともに40%）、東北日本海側の降雪量は「平年並」または「少ない」可能性が大きい（確率はともに40%）。



3か月平均の500hPa高度と偏差の予想図
実線は等高度線 60m 毎、点線は偏差 30m 毎
陰影部は負偏差（一般に寒気に対応）

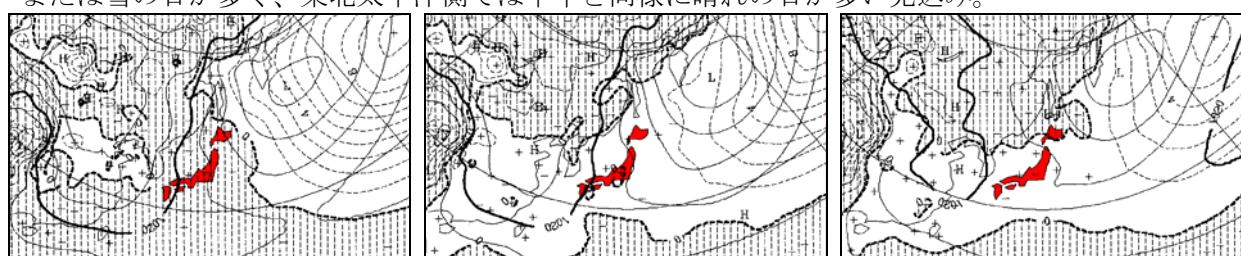
月別の地上気圧と偏差の予想図（下図）：

1月：日本の東の低気圧は正偏差だが、偏差は低気圧の東側ほど強い。平均すると冬型の気圧配置は弱いが、一時的には強い寒気が南下することもあり、寒暖の変動が大きい見込み。気温は、「平年並」または「高い」

可能性が大きい（確率はともに40%）。冬型の気圧配置がゆるみ、低気圧の影響を受けやすい時期もある見込みで、東北太平洋側は平年に比べて晴れの日が少ない見込み。

2月：1月とほぼ同様。冬型の気圧配置となる時期もあるが、冬型の気圧配置がゆるみ、低気圧の影響を受けやすい時期もある見込み。気温は「平年並」または「高い」可能性が大きく（確率はともに40%）、東北太平洋側は平年に比べて晴れの日が少ない見込み。

3月：1月や2月とほぼ同様だが、偏差は小さくなる。また、日本付近の等圧線の間隔は広がり、冬型の気圧配置は少なくなる。低気圧や高気圧が交互に通過し、低気圧の通過後は一時的に冬型の気圧配置になる見込み。天気は数日の周期で変化し、東北日本海側では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多く、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多い見込み。

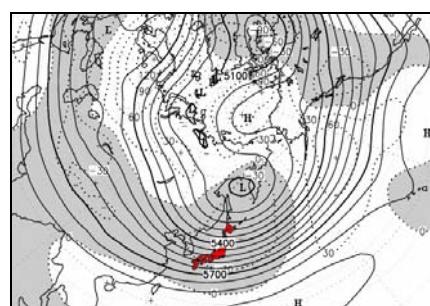


月別の地上気圧と偏差の予想図（左から1月、2月、3月）

実線は等圧線 4hPa 毎、点線は偏差 1hPa 毎、陰影部は負偏差

3. 今月の循環場の特徴

12月（20日まで）：500hPa高度では、北極付近は正偏差。中緯度帯は負偏差の地域が多い。日本付近も負偏差で、時々強い寒気が南下したことに対応している。東北地方は北部を中心に気温は平年を下回った。



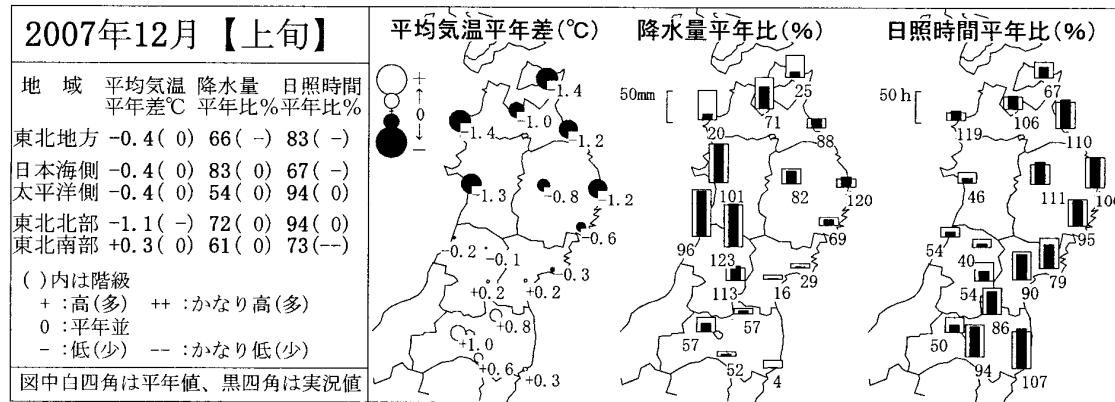
12月1日～20日の平均500hPa高度

実線は等高度線 60m 毎、点線は偏差 30m 毎、
陰影部は負偏差

4. 最近の天候経過

12月上旬：冬型の気圧配置となる日が多く、東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多く、東北太平洋側では晴れの日が多くかった。

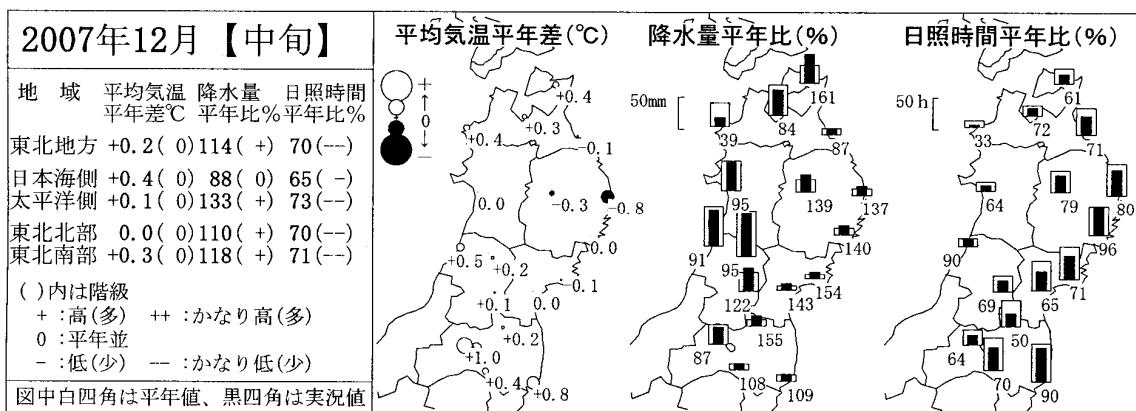
平均気温は東北北部で低く、東北南部で平年並。降水量は東北地方で少ない。日照時間は東北北部で平年並、東北南部でかなり少ない。



東北地方における12月上旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

12月中旬：気圧の谷や冬型の気圧配置の影響で、東北日本海側では曇りや雪または雨の日が多くかった。東北太平洋側では晴れの日が多くたが、時々気圧の谷の影響を受け、平年と比べて日照時間はかなり少なかった。13日は日本海と本州南岸沿いをそれぞれ別の低気圧が通過し、広い範囲で雨となった。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側でかなり少ない。



東北地方における12月中旬の平均気温、降水量、日照時間平年差（比）

5. 太平洋赤道域の海水温等の状況（11月）、及びエルニーニョ現象等の今後の見通し

太平洋赤道域の海面水温は、中部から東部にかけて顕著な負偏差だった。海面から深さ数百mまでの水温や上空の風の状態などもラニーニャ現象が持続していることを示している。

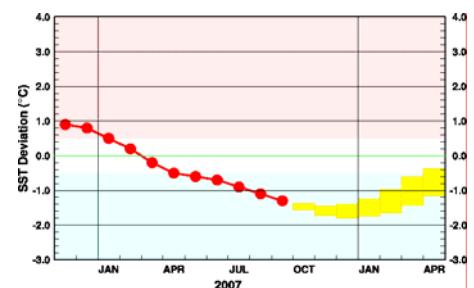
エルニーニョ監視海域の海面水温は、冬の間、基準値より低い値で推移し、春から次第に基準値に近づくと予測される。ラニーニャ現象は2008年の春まで続く可能性が高い。

＜参考資料＞

平年の天気出現日数（日）

	1月		2月		3月	
	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側	東北日本海側	東北太平洋側
晴れの日	5.3	19.7	6.6	17.9	13.3	19.8
雨の日	19.6	7.1	16.6	7.0	14.0	8.3

晴れの日、雨の日は、それぞれ「日照率40%以上の日数」、「日降水量1mm以上の日数」を用いている。



エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差の5か月移動平均値の推移（折れ線）と今後の予測（ボックス）